

2014年
11月
No.193

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
浦谷貞子 気付
さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154

さざなみネット第6回定期大会 地方銀行の再編・女性の働き方 仲間と対話を

全国金融産業労働組合（金融ユニオン）近畿支部滋賀分会（さざなみネット）は、11月11日組合事務所において第6回定期大会を開きました。

浦谷分会長のあいさつに続き、中島金融労連中央執行委員長が次のようにあいさつされました。

「昨日、滋賀銀行で下期臨給の回答があった。残り15%の復枠を要求していたが、前期実績通りの回答だった。中間決算発表前の回答で、銀行の姿勢が疑われる。意見を聞き交渉していきたい。

横浜銀行と東日本銀行、鹿児島銀行と肥後銀行の経営統合が発表され、地方銀行の再編が具体化してきた。地方銀行が再編されると、働く仲間・地域の中小企業・住民にどう影響するのか。急いで学習し、方針を立てたい。

『輝く女性の活躍』とか『意欲・能力のある女性の積極登用』など言われているが、大事なことは、男女賃金格差、女性が働き続けることの困難さ、働く女性の半分以上が非正規雇用で働かざるを得ない実態、育児や家庭責任は女性が中心に担うという現実を、どうして解決していくのかだ。

課題は多いが十分論議してほしい。

(議題)

- ・前分会大会以降の活動について
組合員と機関紙・会議・交流会・電話やメー

ルなどでつながり、ともに成長してきた。毎月分会会議を開催し、情勢や職場の状況について論議し、機関紙を毎月発行した。金融労連・金融ユニオン・近畿地協・友好組合や民主団体の会議や集会などに参加し学習した。



- ・これからの運動について
上部団体などの運動方針に基づき活動。
- ・前年度決算・会計監査報告・予算(案) (省略)
- ・役員について
分会長 浦谷貞子 書記長 山崎幸雄
分会委員・会計監査 (省略)
- ・上部団体役員派遣について (省略)
討論では再編・女性の働き方・組合の役割などについて意見を交わし、全議案とも提案通り採択されました。

大会後、交流会を開き職場の状況や思いなどを出し合い、懇親を深めました。

消費税増税 原発再稼働 労働法改悪 もう黙ってられない怒りのデモ

「もう黙ってられない怒りのデモ」が、10月30日から11月1日にかけて県内7カ所で行われ、県下で約4300人が、さざなみネットからも参加しました。

大津市のJR大津駅前には、「教子を再び戦場に送るな」などののぼり旗や「大企業減税めよ」と書いたちようちんなどを手に集まり、川口公園までデモ行進をしました。

長浜市では午後6時30分から八幡宮で集会、その後商店街、駅前を通り市役所までのぼりや提灯、懐中電灯、ペンライトなどを持ち、「原発をゼロに」「消費税10%増税は中止せよ」「TPP参加やめよ」などとシュプレヒコールをデモ行進しました。

安倍政権のやっていることは無茶苦茶。格差拡大・憲法無視・戦争推進です。黙ってられません。何としてもやめさせたい。



長浜集会の様相



大原女 岩波 美智子さん 画

戦争と憲法を語るつどい (主催 革新の会しが)

平和や憲法守るため、つながろう

安倍政権が「戦争する国」へと突き進む中、戦争と平和、憲法について考えようと15日、滋賀県人権センター光荘で「戦争と憲法を語るつどい」が開かれました。さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

児童文学作家の今関信子さんが「『大久野島からのバトン』を書きあげて一毒ガス資料館長の希望が消えた日、見えた日」と題して講演。世の中の風潮に流されず、「おかしい」と疑問を感じることの大切さを強調。戦争へと向かう動きに懸念を示して、いろんな違いを乗り越え知恵を出し合って、平和や憲法を守るために「つながっていこう」と呼びかけました。

続いて弁護士の井戸謙一さんが「この国に生まれた誇りと憲法9条」と題して講演。憲法の平和主義について、「世界中の平和への願いが

結集したものと称賛。「9条は人類の夢を体現したものと述べ、世界はその方向

に進んでいるものの、「日本の政治は逆行している」と批判して、「新たな悲劇になる前に、引き戻さないと」と訴えました。

今が正念場です。たくさんの人の力も得、がんばっていきたい。



質問に答える井戸さんと今関さん

【談話】安倍「暴走」政治に歴史的なノーの審判を下そう

安倍首相は本日の記者会見で、消費税率10%への再引き上げ時期を18か月“延期”し、11月21日解散、12月2日公示・14日投票で総選挙に打って出ることを正式に表明した。辺野古への米軍新基地建設が最大の争点になった沖縄県知事選で歴史的な大敗を喫し、7~9月期のGDP速報値が年率換算で-1.6%となるなどアベノミクスの破たんが明瞭になるなか、国民的な世論と共同のひろがりに追い込まれて

の解散・総選挙である。労働運動にとっては、安倍政権が成長戦略の目玉に位置づけた労働者派遣法の大改悪法案の廃案を勝ち取ったうえでの総選挙である。

今回の総選挙は、安倍「暴走」政治に怒りの審判

を下す絶好のチャンスといえる。この間の世論と運動のひろがり確信に、安倍「暴走」政治に明確なノーの審判を下すため、全労連は組織の力を集中してとりくむ。

(省略)

全労連は、憲法が問われる今回の総選挙で、「選挙権を行使して、安倍『暴走』政治にノーの審判を下す」ことを強く呼びかける。それは、国民本位の新しい政治の流れをつくりだしていく道でもある。全労連は「憲法をまもり、いかに」を合言葉に、歴史的な総選挙にふさわしい活動をおこなう決意である。

2014年11月18日

全国労働組合総連合
事務局長 井上久



つとみや

「ひよこ乳児保育園子育て支援のための映画会」があり、『ペコロスの母に会いに行く』を鑑賞しました。

原作は、長崎在住の漫画家・岡野雄一のエッセイ漫画で、私たちが避けて

通れない介護や認知症など「老い」を肯定する前向きなストーリー。

主人公のゆういちが、認知症の母がお世話になっているグループホームを訪れたとき、母は「誰？」と聞き、ペコロス(小さな玉ねぎ)に似た頭に手をやって「ようハゲて」と話しかける。ゆういちが、このような何をするでもなく過ぎていく時間を慈しんだ。苦労した少女時代や夫との生活といった過去へと意識がさかのぼっている母の様子を見て、「ボケるとも、悪かことばかりじゃなかもしれん」との思いを深めていく。

私の母は、亡くなって10年。5年ほど認知症で、自分の部屋が分からなくなり、いろんなものを押し入れやタンスにしまったり、遠くまで徘徊したり、地域の皆さんにもいろいろお世話になりました。介護施設に入ってから、洗濯物を取りに行く、丁度夕食中で、施設のスタッフにスプーンで食べさせてもらっているの、変わって食べさせ、それまでない母との触れ合いを経験しました。

この映画を見、母とのいろいろなことを思い出し、笑いと涙でジンとくるひとときを過ごしました。

